

知ると楽しい 楽しいからもっと知りたい 教養の作り方①

## 今の教育で言われていること？

学力研常任委員 深沢 英雄

### 一、「主体的・対話的で深い学び」の授業とは

現場の研修会では、「アクティブ ラーニング」に代わって、「主体的・対話的で深い学び」という言葉が飛び交っています。

「主体的・対話的で深い学び」は、「今回の改訂が目指すものは、学習内容と方法の両方を重視し、子どもの学びの過程を質的に高めていくことである。単元や題材のまとまりの中で、子供たちが「何ができるようになるか」を明確にしながら、「何を学ぶか」という学習内容と「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていくことが重要になる。「見方・考え方」を軸にしなが、幅広い授業改善の工夫が展開されていくことと期待するものである。(P46 審議のまとめ)」と述べられています。

この内容は、日本の教師がこれまで追いかけてきた理想の授業の内容に見えます。

私が二十代三十代の頃見た、先輩の先生の授業や、全国の著名な実践家の授業はすべて「主体的・対話的で深い学び」の授業でした。

『これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善(アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善)を推進することが求められる。』(第1章 総説1 改訂の経緯及び基本方針 新 小学校学習指導要領解

説 総則)にも、はつきりと書かれています。

『児童に求められる資質・能力を育成することを目指した授業改善の取組は、これまでも多くの実践が重ねられており、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが、そうした着実に取り組まれてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならぬことであると捉える必要はない。(主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(第1章) 新 小学校学習指導要領解説 総則

『これまでも重視されてきた知・徳・体の育成というこの意義を、加速度的に変化する社会の文脈の中で改めて捉え直し、しっかりと発揮できるようにしていくことであると考えられる。

時代の変化という「流行」の中で未来を切り拓いていくための力の基盤は、**学校教育における「不易」たるもの**の中で育まれると云えよう。』(中教審答申)

これまで、日本の教師が宮々と築き上げてきた実践を大事にした上で、これからの教師に向けて、やることが大事と述べられ

ています。ややもすると、新しく提起された面ばかりに目がいきますが、基礎の部分をちゃんと見ておかないといけません。

## 二、教師が「主体的・対話的で深い学び」ができる条件を！

中教審答申や新学習指導要領を読むと、子どもたちを「主体的・対話的で深い学び」に誘うには、こうしていこうという内容が詳しく述べられています。

そのためには、教師が知的好奇心をもって、念入りに授業準備をし、子供が分かった・楽しい・力がついたという授業をしたということのは、すべての先生の願いです。そのためには、先生が精神的にも肉体的にも元気でないと「いい授業・いい学級づくり」はできません。学校・学年の先生との授業のための話し合いや個人での教材研究が必須です。でもその時間がとれないのです。

「子どもも教員も元気な顔で毎日登校できるようになるためには、21世紀後半を見据えた教育へ大投資が必要なことは明白である。」「歴史上、最高・最良の教育条件

整備が急務」と言われています。全くその通りだと思います。条件整備のない中では、「主体的・対話的で深い学び」をどの子にも実現するには無理があります。

## 二、教師が「主体的・対話的で深い学び」を追究していく

条件整備は求めつつ、教師自身が中教審答申や新学習指導要領を読むと、子どもたちを「主体的・対話的で深い学び」に誘うために、こういうことが必要だ。これもいと懇切丁寧に書かれています。

この内容を実現するためには、**教師自身が「主体的・対話的で深い学び」**をしなくては、なりません。

今からの教師は、「道徳」「英語」「プログラミング」など、色々なことを求められています。授業は、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を……。

つまり、「名人の先生の授業」をみんなやりなさい、できるようになりなさい、それを目指しなさいと促されているのと同じです。

この連載をはじめるとあたって、編集の荒井先生からこういうことで書いてほしいという内容が来ました。

「深沢先生は、いろんな人の講演を聴きにいかれたり、興味を深められたり、教師として人間としての教養を深められています。そのことが教師としての生き方にどう影響しているかみたいなのが知りたいです。」また、「新指導要領で、これからの教育がどう変わっていく、それに対して、私たちの学力研の教師はどう向かいあっていかなくてはいけなさを教えていただきました。」と書かれました。

私にそれに十分こたえる能力はありませんが、自分はどう学んできたこと、こういうやり方もありますよということは語ることはできません。それを通じて、現場で子どもと向き合っていく先生へのメッセージを送りたいと思っています。

この連載のキーワードは、「人」「読書」「行動」です。来月は、一つ目のキーワード「人」からスタートしたいと思います。よろしくお願いたします。

